

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2020年3月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第7回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門:2019.5.25(土)~6.9(日) ヴァイオリン部門:2019.6.15(土)~6.30(日)

チェ・ヒョンロク (第7回仙台国際音楽コンクールピアノ部門優勝)

仙台フィルハーモニー管弦楽団第333回定期演奏会 演奏レポート

文: 正木 裕美 (音楽ジャーナリスト)

2020年1月25日 演奏曲目/ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品19 会場/日立システムズホール仙台 コンサートホール

1月24、25日の2日間にわたり、チェ・ヒョンロクが仙台フィルハーモニー管弦楽団の定期公演にソリストとして出演した。コンクール以来初の仙台におけるこの公演で、チェはベートーヴェンのピアノ協奏曲第2番を披露。作品に多分に含まれるモーツァルト的な要素をより引き立たせる演奏で、パッセージひとつひとつの魅力を紐解くように丁寧にアンサンブルを作り上げていた(1月25日・日立システムズホール仙台)。

響きに敏感なチェらしく、第1楽章は伸びの良い音色で訥々(とつとつ)と語りかけるような出だしで始まり、オーケストラと繰り返される親密な対話はアンサンブルの喜びにあふれていた。これまで聴いた印象から、チェはソリストとして自分の音楽や個性をオーケストラや聴き手に一方的にアピールするのではなく、ピアノとオーケストラの"協奏"の中心となって、丁寧な対話を繰り返していくタイプだ。さらに対話の中にも常に作品への真摯な視点が表れており、フレーズひとつひとつに細かいデュナーミクを施し、また常に音色への気配りを欠かさない。それはこの第2楽章でも同様で、ペダルを極めて長めに用いて余韻を響かせながら、ホール上部から舞い降りるかのような柔らかな響きで魅了していた。またオーケストラもこれに応え、同質の響きを渡し合っていたのが印象に残る。

一転してリズムカルな第3楽章では、チャーミングで歯切れの良い演奏。ソプラノのコラトゥーラのような軽やかな音色も心地よい。短い主題とエピソード部分を次から次へと受け渡す Rond 形式ならではの魅力は、チェとオーケストラとの息の合った掛け合いでより映え、躍動感に溢れた。

演奏からは一貫して、今自分が表現しているパッセージにおいて何をどう聴き手に聴かせたいのか、何を届けたいのか、というこだわりが感じられた。それは、非常に繊細なデュナーミクやフレーズのまとめ方、楽章やパッセージごとに弾き分けるさまざまな音色など、けっして大仰にアピールするわけではないが、彼が持つセンスや技術に裏打ちされている。第3楽章などはもっと積極的に前に出て良いように感じる部分もなかったが、コンクール本選で聴いたチャイコフスキーを思えば、それができないのではないことは明らかだ。それよりもオーケストラとの掛け合いを通じて、ベートーヴェンの協奏曲の中でもより朗らかで自由度が高く、アンサンブルの親密度の高いこの作品の魅力を伝えようという、彼なりの解釈だったのだろう。こうして常に作品の本質を考え真摯に向き合う姿勢は、忘れられがちだが、ピアニストに必要な不可欠ではないだろう。

なお、この日のアンコールは、リストの「ラ・カンパネラ」だった。あとで本人に訊くと当日突如思い立ったそうで、前日のアンコール曲とは異なる。超絶技巧で知られるこの作品の選択を意外に思ったが、チェの演奏は一味違った。過度に激情的な表現もなく、耳をつんざくような凄まじい鐘の音もない。憂いを湛えつつも終始温かみすら感じられる音色で、過度に力んだ表現がない分、テーマにさまざまに施された細かい装飾表現がクリアに耳に届いた。また、広範囲の手の移動やときには素早い15度の跳躍があるにも関わらず、まったく意に介さずに落ち着いて繊細な表現に努めていたのも印象深い。考えてみれば「ラ・カンパネラ」のイタリア語訳は「小さな鐘」。なるほど、鐘の音を繊細に多様な音で表したチェの解釈もまたひとつなのだ、と合点がいった。

第7回仙台国際音楽コンクール最高位受賞記念 チェ・ヒョンロク ピアノリサイタル



2019年第7回仙台国際音楽コンクール優勝者による日本初ソロ・リサイタル。作品と真摯に向き合い紡ぎ出されるチェ・ヒョンロクのピアノの調べを、ぜひお楽しみください。

仙台公演
6月14日(日) 14:00 開演
会場: 日立システムズホール仙台

東京公演
6月18日(木) 19:00 開演
会場: 浜離宮朝日ホール

【演奏曲目】

ショパン: 夜想曲 第14番 嬰へ短調 op.48-2 (6/14仙台公演のみ)

ショパン: 3つのマズルカ op.59 (6/18東京公演のみ)

ラヴェル: クーブランの墓

ラヴェル: 高雅で感傷的なワルツ

ショパン: ピアノ・ソナタ 第3番 ロ短調 op.58

※演奏順・演奏曲目は変更になる場合があります。

【仙台公演チケット情報】

一般 3,000円、シルバー(65歳以上) 2,500円、ユース(25歳未満) 1,500円 ほか
プレイガイド: 仙台市市民文化事業団(日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール
イズミティ21)、チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス ほか

【東京公演チケット情報】

一般 3,500円、シルバー(65歳以上) 3,000円、ユース(25歳未満) 1,500円 ほか
プレイガイド: 朝日ホール・チケットセンター、仙台市市民文化事業団、チケットぴあ
ローソンチケット、イープラス

※セット券・市民文化事業団友会の会料金有。詳しくは公式サイトをご覧ください。



■お問い合わせ先/公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: https://simc.jp